

会 議 録

日 時	平成 25 年 4 月 13 日 (土) 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
会 場	北部地区サービス事務所 第 1 第 2 会議室 (目黒区大橋一丁目 5 番 1 号 クロスエアタワー9 階)
出 席 者	委員) 石川委員、市田委員、伊藤委員、上田委員、倉本委員、西村委員、早野委員、 矢野委員、渡島委員
	区側) 都市整備部長、みどり公園課長、環境保全課長、環境計画課長、 事務局 9 名、東京大学 1 名、中外テクノス(株)3 名
傍 聴 者	3 名
配 布 資 料	資料 1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 資料 2 (2) 基本目標について (基本テーマと目標設定) 資料 3 (3) 施策の方向性 (施策の方向性と柱立て) 資料 4 (4) 懇談会の開催に向けて 資料 5 (5) 「80 選のいきものたち (仮称)」の作成について 資料 6 平成 24 年度の各種調査結果 資料 7 生物多様性に配慮した商品のエコラベル等について 資料 8 愛知目標と目黒区の関連 資料 9 意見の追加提出用紙 その他 各種パンフレット
会 議 次 第	1 開会 (1) 傍聴及び議事録について (2) 委員の出欠について (3) 事務局からの連絡 2 議事 (1) 第一回策定委員会の意見と検討事項の確認 (2) 基本目標について (基本テーマと目標設定) (3) 施策の方向性 (施策の方向性と柱立て) (4) 懇談会の開催に向けて (5) 「80 選のいきものたち (仮称)」の作成について (6) その他 3 第 3 回目黒区生物多様性地域戦略 (仮称) 策定検討委員会に日程について

<p>会議の結果 及び 主な発言</p>	<p>1 開会</p> <p>(1) 傍聴及び議事録について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事録の発言者名の公開について 第一回及び第二回の議事録について、発言者名を記して公開する。 ⇒全員容認 ・傍聴についての確認 合計3名の傍聴について確認。 ⇒全員容認 <p>(2) 委員の出欠について ⇒全員出席</p> <p>(3) 事務局からの連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料の確認 <p>2 議事</p> <p>(1) 第一回策定委員会の意見と検討事項の確認 担当：みどりと公園課長・・・「資料1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認」について説明</p> <p>【質疑応答】</p> <p>矢野委員： 「資料1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 ウ 目黒区が目指すべき環境像は？(生物多様性のイメージ)」のカラスが多いということについて、第一回委員会で発言した内容を補足させていただきたい。 自然教育園の利園者に見せるための生き物のつながりという生態系ピラミッドの図を用意してきた。普通は三角形になっており、底辺に位置する生産者が一番多く、生態系ピラミッドの上位に位置すればするほど個体数は少なくなるのが普通である。例えばオオタカは、その個体数は非常にわずか、主に鳥類を捕食する。しかし、カラスは生態系の上位にあるが400～500羽と個体数が多いのに、ヘビ・カエルなど下位の生物のほとんどを食べる。カエルが食べられれば、普通は虫が増えるはずだが、カラスはその虫すら食べてしまう。このようなカラスの習性は、都市の生態系への影響が大きいと思われる。</p> <p>伊藤委員長： 都会の生物多様性をどう捉えるかについては、目黒区の生物多様性戦略を作るうえで重要である。前回の内容に補足することがあれば伺いたい。</p>
------------------------------	---

倉本副委員長：

「資料1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 ウ 目黒区が目指すべき環境像は？（生物多様性のイメージ）」について、生物多様性には固有性、目黒区に固有なものという考えはあるものの、都市において固有性を考慮するのは、目黒区のような都市では非常に難しい考えである。このことについて整理しておく必要がある。

伊藤委員長：

目黒区にも絶滅危惧種はある程度生育・生息しているものの、自然の豊かな場所と同様に考えるわけにはいかない。都会では、在来種という日本の生物だけにこだわってしまうと難しい。植樹、園芸といった外来種を除外して生物多様性を考えるのは困難である。しかし、環境省の侵略的外来種、つまり、在来の生態系に悪影響を与える種を勘案すれば、何らかの切り分けができると考えられる。他の地域の自然公園とは違った、都会独自の視点が必要である。

倉本副委員長：

一部の絶滅危惧種にも十分配慮すべきである。したがって、委員長がおっしゃるとおり、切り分けが必要であると思う。

伊藤委員長：

絶滅危惧種が生息しているような所は優先して保護しつつも、都会では生き物と触れ合う機会を増やしていくということも、ひとつの方向性になるのではないかと考える。

上田委員：

あらためて「資料1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認」を見ると、目黒区の生物多様性のその多くは、身の回りの生物多様性を扱っているようだが、「資料1 (1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 エ 生物多様性の教育・啓発」について、人間そのものが生態系の中に位置付けられるという啓蒙活動、すなわち、身の回りの自然というよりもスーパーマーケットで販売される生き物をみて、人間自らの位置付けを顧みることと、身近な生物への理解というものが、地域戦略の中で分けて取り扱うか融合させていくかどうかについても議論すべきであると考ええる。

伊藤委員長：

愛知ターゲットの目標を見ると、生物多様性の戦略とは、単に自然を守るばかりではなく、様々なターゲットがあることがわかる。たとえば教育、食糧など様々な目標があるので、目黒区の地域戦略の中ではそれらも十分に勘案すべき事項と考える。

教育の問題、また、「資料1(1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 オ 生物多様性という文言について（代替できるやさしいことば）」について意見はないか。

(質疑事項なし)

伊藤委員長：

「資料1(1) 第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 カ エコロジカルネットワークの形成」の方向性について意見はないか。鳥を中心に、島状の緑を繋げるということについて、それでは地表性の生き物についてはうまく作用しないのではないか、というような方向性について意見はないか。

矢野委員：

鳥の場合は人間から距離のある生き物である。ツバメにしてもシジュウカラにしてもウグイスにしてもそうである。ところが、虫の場合は非常に近くに接することができる。それから、観察会でも子供たちは虫が好きである。したがって、鳥と虫をうまく組み合わせると良い計画ができるのではないか。

ハチやガとなるとイメージは悪いが、チョウの場合、成虫には親しみがあるし、チョウの幼虫の食草を用意したり、成虫の蜜源植物を用意したりすると、その数は結構増える。また、温暖化の影響により、ナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモン、ムラサキツバメなど今まで見られなかったようなチョウが見られるようになっている。その他、一般的に見られるチョウというのはかなりいるので、チョウと野鳥を組み合わせると非常に良いと思う。チョウが増えるとそれを食べに来るクモやカマキリがやって来て、次のそれらを食べる鳥がやって来るという関係が繋がってくるのではないかと考えられる。やはり、野鳥だけよりも虫も少し勘案した方が良いという気がする。「チョウが舞い、鳥がさえずる街づくり」というような感じで、チョウと鳥の2つの生き物を入れた方が良いと思う。

伊藤委員長：

ひとつの生き物に偏らないほうが良く、色々なものを組み合わせる必要がある。

(2) 基本目標について（基本テーマと目標設定）

担当：みどりと公園課長・・・「資料2(2)基本目標について（基本テーマと目標設定）」について説明

【質疑応答】

西村委員：

家の前をガレージにするより、花壇や庭にした方が良いと考える人がほとんどだと思う。こうして緑化した部分をセットバックとして認めるという様な事例があれば緑化の運動が広がると考えられ、50年といった長期的な目標の達成に寄与すると考えられる。この場合、条例の面などでの問題はるか。

事務局（都市整備部長）：

自由が丘で実施されている壁面線は歩道上空地を作ることを目標としているので、花壇などは基本的に設置してはいけない、ということになっている。

西村委員：

自由が丘の緑化と同様の取り組みを区全体で行えば、家の前の半畳くらいのスペースでも、相当な面積になると考えられる。

石川委員：

「(2)基本目標について（基本テーマと目標設定）ウ 目黒区の生物多様性の現状例と主な課題」の活動の所で、花壇ボランティアやグリーンクラブの紹介についてだが、三軒ぐらゐの家が集まってプランターなどに花を植えて、皆さんに見えるように道路際に置く。このようにして、緑化を推進している区のみどりの協定活動がある。

西村委員：

そういう活動について、条例のある地区でセットバックした場所に置くというのが一番美しいと考える。

石川委員：

新築のマンションなどの大きな建物の道路側で、素晴らしい植栽が見られる場所も増えてきている。そのような空間を生み出すといった案もあると良い。

伊藤委員長：

道路行政との関わりもあり、難しい課題であるが、名案があれば是非ともお伺いしたい。

矢野委員：

「(2) 基本目標について（基本テーマと目標設定）ウ 目黒区の生物多様性の現状例と主な課題」について、目黒区で生物がヒートアイランド現象の影響を受けた例はあるか。

事務局：

地球温暖化による影響の観察例は多くなってきている。区レベルでは、ヒートアイランド現象が生き物に与える影響についてのデータは持ち合わせていない。

矢野委員：

シュロ、センリョウ、マンリョウ、暖地性のチョウが増加している。また、生物暦も変化してきている。春が早くなって、秋が遅くなっている。従来の開花時期なども随分違ってきている。観察するうえでは、温暖化の影響も勘案すべきである。

伊藤委員長：

東大駒場キャンパスでもシュロが増えてきており、管理しているものの追いつかない現状がある。

上田委員：

「(2) 基本目標について（基本テーマと目標設定）ウ 目黒区の生物多様性の現状例と主な課題」の目黒川・呑川などの河川をとおして東京湾の生態系ともつながっているとあるが、目黒区の呑川は大半が暗渠になっているので、この表現については違和感を覚える。

事務局（みどりと公園課長）：

呑川については、緑が丘からは開渠になっている。しかし、水源がないので、処理場の水を流している。

市田委員：

生物多様性を区民に普及したいという考えはあるが、区民の個人個人が生物多様性に配慮した生活をするというのはある程度、限界があると思う。したがって、企業に対して普及してはどうか。例えば、生物多様性に配慮した何かをすると表彰されるというようなことがあると普及啓発になると考えられる。

伊藤委員長：

企業に対しては指針を示さないと、こういうことが可能であれば進めてください、というような何か指針を作らないと企業も動きづらい。

上田委員：

「(2) 基本目標について(基本テーマと目標設定)エ 計画の基本方針」あるいは、「(2) 基本目標について(基本テーマと目標設定)オ 計画の目標」の「区分1・目標4 野鳥の年間確認種数50種以上を維持」と関係するが、“野鳥”というようにやや限定的に記載されているが、ここでも先程の矢野委員の意見も踏まえ、チョウについても含めると考えてよいのか。

事務局：

限定して鳥類ということではない。

これから文言などについては、委員会の意見を踏まえて改めていく予定である。

伊藤委員長：

生き物によって、ネットワークは多様である。ネットワークとは単に地域的なネットワークだけではなく、生き物と生き物の間のネットワークもあるので、そこを強調したほうが良いと考える。

上田委員：

「(2) 基本目標について(基本テーマと目標設定)オ 計画の目標」で、一人当たりの公園面積の拡大とあるが、生物の生息環境にとっては“土”が非常に大事だと思っている。公園の面積の拡大については、できるだけ“土”のある公園、“地面”のある公園にすることが生物多様性の観点から重要と考えられる。

伊藤委員長：

確かに、コンクリートだけで固められた公園では、面積が増えたとしてもどうしようもない。

西村委員：

「(2) 基本目標について(基本テーマと目標設定)エ 計画の基本方針」の「1) 地域戦略策定に向けた基本的な方針」において、区民一人ひとりが、命のつながりとか生物多様性を理解してもらうよりは、触れ合う機会を増やした方がよいと思う。触れ合う機会が増えれば自然と子供は興味を持って調べるようになる。区民に分からせる、というような表現では、やや硬いという印象を受ける。触れ合う機会を広げましょう、というような表現の方が良いと思う。

(3) 施策の方向性（施策の方向性と柱立て）

担当：みどりと公園課長・・・「資料 3 (3) 施策の方向性（施策の方向性と柱立て）」について説明

【質疑応答】

早野委員：

「資料 3-2 時が培う 目黒区の生物多様性」は、大変興味深い年表である。目黒区では子供たちに環境のメッセージを伝えるビデオを多く作っており、書庫に在庫が多くあるものの、自宅にビデオを再生できる機器がなくなっている。今後は I T がさかんになり、そういった媒体でみんなに見せていく方向になると思う。今、教えている学生たちに環境の絵本を作らせており、原作者である学生たちに印刷して返そうとしているが、印刷代がかかる。そこで、印刷よりも安い価格の I T で閲覧することができるようになれば、学校の先生方も教材として使うことが出来る。電子媒体で閲覧することが可能であれば、環境教育の面から素晴らしい教材になると考えられるので、完成するのを楽しみにしている。

伊藤委員長：

内容が多岐に渡っているので、まとめるのは困難かと思われるが、計画の中で電子化など可能であるならば、取り組んでいきたい内容である。

市田委員：

野鳥の住める環境づくりという表現については、上田委員より指摘があったとおり、野鳥だけに着目すれば良いというわけではないと私自身も考えている。しかし、ひとつの言葉として、野鳥をシンボルとするのは良いと考える。

説明の中で、虫とつながっているなどといったように、生き物とのつながりを表現できれば良い。

例えば、シジュウカラが子育てするには、チョウなどの幼虫も必要になるというように、全てがつながっている。チョウがシンボルになってもつながりを表現することはできるが、生態系の上位にいる野鳥の方がシンボルになりやすいと思う。

伊藤委員長：

「資料 3 (3) 施策の方向性（施策の方向性と柱立て）エ 生物多様性確保に向けた配慮事項（目黒区）」の生態系ネットワークの拠点を示すグラフは、仮にまとめた例という観点で見れば良い。もう少し詳しく解析しているものの、努力量をどう表現するか、つまり観察の数をどう表現するか、ということが難しい。

上田委員：

「資料 3 (3) 施策の方向性 (施策の方向性と柱立て) エ 生物多様性確保に向けた配慮事項 (目黒区)」の公園などの具体的な生物多様性配慮指針の例を見ると、目黒区の生物多様性に配慮した公園管理は、他の区や都立公園と比べて非常に進んでいると考えられるので、今後もこの方向で進めていくことを希望する。

また、生物多様性と、口で言うのは簡単ではあるが、人々にとって住みやすい環境と生物多様性は、時に緊張関係になることもある。生き物がにぎやかという表現と虫が湧いているという表現は表裏一体である。この観点から言えば、豊かな緑から生じる落ち葉は、一般的には厄介物である。落葉樹が多い緑地の付近などは路上などに落ち葉が多くなると考えられるが、落ち葉掃きが生物多様性の取り組みに組み込まれないものか。

伊藤委員長：目黒区には落ち葉に関する施策はあるか。

事務局 (都市整備部長)：

落ち葉掻きが地域コミュニティ構築に一役買うことはあったが、最近では区が落ち葉掻き掃きをほとんどやってしまうようになっている。しかし、地域によっては、住民自身が落ち葉掻きをやっている場所もあるが、落ち葉掻きを区に依頼する電話が多いというのが現状である。委員からご意見があったとおり、落ち葉掻きはつながり作りのきっかけになると思う。

伊藤委員長：集めた落ち葉がゴミになるのと、資源になるのとでは区民の捉え方が違ってくる。

事務局：

区立公園の「落ち葉ンク」では、駒場野公園などの大規模な公園で堆肥にして植え込みに撒くなど行っている。

伊藤委員長：

落ち葉は単なるゴミでなく、資源のひとつであるという考え方が定着すると良いと考える。落ち葉は実際のところ、窒素やリンといった元素の源になるという観点から重要である。こういった認識を区民へわかりやすく説明できると良い。

石川委員：

中目黒公園内には有機クラブというクラブがあって、落ち葉で腐葉土を作っている。腐葉土を作れば、その温度が上がってカブトムシが湧き、非常に良質な腐葉土が出来上がっている。落ち葉も分解が進めば、土に返り、かさも減る。ちょっとした庭でも、落ち葉を積んでおくだけで、土に帰っていき、虫の住処にもなる。このような内容について、中目黒公園の花と緑の学習館ではエコガーデニングという授業を開いているので、他の場所でもそのような機会を設けるのが良いと思う。

倉本副委員長：

上田委員の意見にもあったが、目黒区の公園管理が都立公園よりも進んでいるということに異論は無い。林試の森公園についても計画ができれば、目黒区として積極的に働きかけていくことを希望する。

渡島委員：

施策の方向性までのお話を伺っていて、意見や感想となるが、教育の場面への期待が大きかった。「資料 3-2 時が培う 目黒区の生物多様性」のくらしのすがたを見ると、大人が改めて生物多様性を理解することも大事だが、感性豊かな子供たちが、その視点を持って理解することも大事であると感じた。「資料 6 平成 24 年度の各種調査結果」は、子供たちの感想を教育者が理解し、教育者が生物多様性と絡めて啓蒙していかなければならない資料である。学校現場も ICT が進んでいるので、そういう手段を使って、視野を広めるということも求められている。一方で、自然と触れ合うという機会が減りつつあるのではないかと思う。小学校 22 校で落ち葉の堆肥づくりに取り組んでいるが、昔は当然の事柄であったが、現在は、落ち葉をゴミとして出してしまう、ということが一般化している。残念ながら、本校でも落ち葉は大方、ゴミとしている。子供たちの豊かな心情面を勘案し、ボランティアとして取り組んでいるような取り組みを整理し、生物多様性の担い手として育てていかなければならないとさらに強く感じた。

伊藤委員長：

教育の問題はかなり重点的な議題である。教員の側に落ち葉に関する知識がないということも考えられる。したがって、子供たちへ広めるには、まず教員へ広めていくということが重要であると考えられる。

具体的な文言作りについては、次回の検討委員会で議論できればよいと思うので、今回は視点や方向性について見ていただければ良い。

(4)懇談会の開催に向けて

担当：みどりと公園課長・・・「資料4(4) 懇談会の開催に向けて」について説明

【質疑応答】

伊藤委員長：

地域戦略を策定する上で、住民の参加というものを促すという目的から、1か所ではなく複数か所で開催する予定である。意見を伺いたい。

倉本副委員長：

委員も参加できるのか。

事務局：

対応については、これから検討するが、なるべく多くの区民の声をお伺いしたいので、ひとつのパターンではなくて、色々な参加団体の意見ややり方を活かしていきたい。

伊藤委員長：

委員は講師として参加することも考えられる。また、参加希望者ができるだけ気軽に参加できるものが望ましい。あまり肩苦しくなく、一緒に運営していくというような方向性があると良いと考えられる。二年前に大学で、虫を見る、というイベントを行ったが、結構、色々な虫がいるものである。

西村委員：

親子連れイベントが良い。例えば、自由が丘でやるのであれば、商店街の自然、住宅地の自然、公園の自然といったように色々なテーマがあっても良い。その方が宣伝もしやすいし、後からのアピールもしやすくなると思う。

伊藤委員長：

実際に歩いてみて、歩いた後に、説明するというような流れでも良いかもしれない。

早野委員：

環境ナビゲーター養成講座に関わっており、五期生まで修了したが、そのような方たちがもっと活躍できる場があれば良いと考える。

今後、懇談会をやられるのであれば、養成講座修了生も関わって、何らかのデータ収集をできないかと考えている。

伊藤委員長：

「歩く」という行為は重要である。モデルコースの整備、ガイドや案内板の整備も考えられる。

早野委員：

既に7つぐらいの商店街が目黒区のものびり散歩に参加しており、商店街の人たちと環境ナビゲーター養成講座の修了生がドッキングして、来られた方々に生物多様性をどう考えるのかについてアンケート調査をして、その調査で得られた声を、商店街へ返してあげる、という流れになると、非常に良いと思う。

伊藤委員長：

地域の活性化にもつながると思う。

市田委員：

商店街は目黒区の生物多様性を考えるうえで、キーワードになると思う。街路樹に何を植えているのかではなくて、八百屋、魚屋で売っている商品がどこから来たのか、また、そういった自然の恵みを我々は享受しているということについて懇談できる場も重要と考える。

伊藤委員長：

生物多様性に配慮した商品を仕入れることも重要である。

早野委員：

エコに結びつけることのできる素晴らしい商品を多く売っている店もある。そのメッセージをうまく伝えることが出来ないでいる場合もある。エコな商品を扱っている店を口コミで広めてあげたり、ツイッターなどの色々なメディアを活用して広めてあげることにもつながる懇談会を開催できれば良いと考える。

伊藤委員長：

そのような店があるということの宣伝は目黒区としてはできないと思うが、NGOのような形で、懇談会の中で育てていく、発信をしていくというのが重要になると考える。

目黒区のスタンスとしては、そのようなことができる環境づくりをする、ということになると思う。

(5) 「80 選のいきものたち (仮称)」 の作成について

担当：みどりと公園課長・・・「資料 5 (5) 「80 選のいきものたち (仮称)」 の作成について」について説明

【質疑応答】

上田委員：

夜行性であることなどを勘案すると、ヤモリが 1 位であることについて、個人的に驚いている。他の委員の意見を伺いたい。

西村委員：

ヤモリは身近でリアルな自然である。また、「家守」という良いイメージがあるからではないか。

早野委員：

マンションに住んでいる子供たちはヤモリを見る機会が少ないだろう。そういった子供たちへヤモリの実物を見せることができる教材は何かないだろうか。

目黒区ではヤモリの絵本やキャラクターを作ってはどうか。

渡島委員：

学校でも意図して生き物を見せていく、という姿勢が大事であるとする。また、子供たちはミニトマト等を育てると、収穫までたどり着き、ミニトマトを食べることができなかつた子供がミニトマトを食べることができるようになる、という事例もある。こういうことから、本物に触れる良さというのも重要であるとする。

伊藤委員長：

80 選のいきもののように「選ぶ」ということだけにとどまらず、生き物を見せていく、ということが大事になってくると思う。

(6) その他

担当：みどりと公園課長・・・「資料 9 意見の追加提出用紙について」説明。
意見の追加提出用紙については、今月の 26 日を期限としてご意見を伺いたい。

3 第 3 回目黒区生物多様性地域戦略 (仮称) 策定検討委員会に日程について

事務局：第 3 回策定検討委員会は以下の日程で行う予定である。

日時：平成 25 年 6 月 7 日 (金) 午後 6 時から午後 8 時半

場所：目黒区総合庁舎会議室

意見の追加提出用紙に基づく記載整理

該当資料	意見
資料 1(1) 第一回策定検討委員会 の意見と検討事項の確認	<p>【倉本副委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ア 目黒区原風景をどのように扱うか 2) 検討の方向性」に「常緑樹林の価値を再検討する」という記述があるが、同項目の表中にある環境区分との関係がよく理解できませんでした。 ・指標種という種アプローチに加えて、指標種群という群集アプローチもこれだけデータがあれば検討に値するのではないかと思います。 ・里山の暮らし方は目黒区に残っていますか。また、復活するための情報は記録されていますか。 <p>【早野委員】</p> <p>目黒区原風景の扱いでは、昭和初期を想定とありましたが、今一つ具体的な映像が浮かんできません。昨今、色々な場面で「見える化」という言葉が聞かれますが、文字だけでは限界なので、区が所有するかつての原風景の写真に区民の誰もが簡単にアクセスして見えるようにするのはいかがでしょうか。あるいは、学生に理想とする緑の風景の作品やコンピュータグラフィックによる作品を募集して、それを区が表彰し、風景に一定のイメージを描かせることで、将来構想も具体的に描けると思います。</p>

意見の追加提出用紙に基づく記載整理

該当資料	意見
<p>資料2(2) 基本目標について (基本テーマと目標設定)</p>	<p>【倉本副委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内で記録された種の分析を行う必要があると思います。これまでに行われたことを知りたいです。 ・受け継がれている地域の伝統的文化の内容をもっと詳しく知り、里山の暮らし方と関連付けて検討してみたいです。 ・活動と伝えるのは少しニュアンスが違ってしまうように感じますが、伝えるに代わる言葉はまだ見つかりません。活動の方を代えて参加・参画でもいいように思います。 ・目標3の公園面積ですが、生態系にとっては実面積が大事だと思います。 <p>【矢野委員】</p> <p>資料2ウ、目黒区の生物多様性の現状例と主な課題について トップに市街地を中心としたヒートアイランド現象の顕在化の例題が提案されていますが、最近東京では、植物はシュロ・マンリョウ・センリョウ・ノシラン・キウイなどの暖地性の植物が増加している。チョウではナガサキアゲハ・ツマグロヒョウモン・ムラサキツバメなどが温暖化による北上現象がみられている。 また、生物季節では春の花は早まり、秋の紅葉が遅れるなどの現象がみられる。このような生物の変動の記録を長年取り続け、都市化と生物の実態も明らかにしたいものである。</p> <p>これまで目黒区では「野鳥のすめるまちづくり計画」を推進して長年の成果を上げている。しかし鳥は人間との距離があり、また個体数も少なく接触頻度がやや低い。虫は子供にも大人にも興味を持たれている。しかし、身近に多いとってハチやガをシンボルにするわけにもいかない。チョウは比較的人気も高い。個人の庭や公園などにチョウの幼虫の食草や蜜源植物（主に花）を植えれば身近に観察することができる。幼虫が嫌いな人は花（ブットレア・アベリアなどは花期も長くチョウがよく集まる）を植えればよい。 そしてチョウが増えれば、クモ・ハチ・カマキリなどの捕食者も増え、ひいてはこれらの小動物を捕食する鳥類のすめる街づくりへと繋がるのでは……。『蝶が舞い小鳥がさえずる街づくり』を提案したい。</p> <p>【早野委員】</p> <p>野鳥を指標にする方針が掲げられていました。しかし、現実には野鳥を見なれた人には野鳥の名前を言い当てることは難しくないと思えますが、それが出来る人の方が少ないと思います。むしろ、ヤモリ等のように身近な生き物に関心を集める手法を展開してはいかがでしょうか。ヤモリは天井や壁にへばり付きますが、手の平に吸盤があるわけではありません。手足の裏にある剛毛が持つ「ファンデルワールス力」でへばりついているそうです。ファンデルワールス力とは、電荷を持たない中性の原子、分子間などで主となって働く凝集力のことで、これは愛知万博で出展したイギリス館で非常に分かり易く解説されていました。人類は自然界に潜む不思議な能力を分析し、生活に応用してきました。今回のプロジェクトには理科の教員が関わっているということなので、先生方の力も御借りしたいと思いました。</p>

意見の追加提出用紙に基づく記載整理

該当資料	意見
<p>資料3(3) 施策の方向性（施策の方向性と柱立て）</p>	<p>【倉本副委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土種の植栽と関連して雑種を作る近縁種の植栽を慎むように配慮する場所（駒場野公園とか）を決めた方が良いでしょうと思います。なお、雑種の実生が成長しなければよいとも思えます。 ・都立公園は東京都公園協会の管理だと現場任せのところが多いので、もっと区からの要求を突き付けていくといいと思います。なお、東京都の公園緑地部でも都立公園の生物多様性のプロジェクトを展開しようとしていて、そのなかでも地元の区との連携が委員から提案されています。 ・目黒区には区立ではない学校（事業者のようなもの）が多いように思います。 ・これらの学校が自分のキャンパスとその周囲の自然に目を向け、消費行動を考え、目黒区の活動にも参加したくなるように誘導していきたいと思います。 ・都市緑化宣言文と地域戦略にはギャップを感じますが、宣言文を読みたいと思いました。 ・A3版の資料はとてもおもしろく眺めています。目黒区の勉強の羅針盤になります。 <p>【市田委員】</p> <p>目黒の自然を考えると、神社・寺・個人の庭・学校・公園が挙げられます。これから新たな試みをするのではなく、現存する「みどりの散歩道」を活かして、修正していくのが現実的だと思います。そのためには、「みどりの散歩道」を見直し、愛知ターゲットと照らし合わせながら施策を進めていくのがいいと思います。</p> <p>【矢野委員】</p> <p>資料3-1の「生物ネットワーク拠点」の図だが、樹木と草本の種類数の構成だけだと左の小さな公園ほど緑が豊かであると誤解されやすい。いろいろなデータがあると思うので、公園の面積、管理方法、森林構造、草地の種類、園芸種・外来種・在来種などの比率など別のものさしで分析するとチョウや鳥の種類数と環境の違いがもう少しはっきりするのでは……。またチョウ・鳥ともに種類数はかなり高い値となっている。おそらくこれまでに記録された種類数だと思われるので、「〇〇年から現在までの〇〇年間に記録された全種類数」と書いた方がよいと思う。</p>

意見の追加提出用紙に基づく記載整理

該当資料	意見
<p>資料4(4) 懇談会の開催に向けて</p>	<p>【倉本副委員長】 ・懇談会は委員が分担して参画したいと思います。 ・個人的には、比較して見れるようにしたいので、2か所、日程が合えば、南部方面と、菅刈公園に参加したいです。</p> <p>【市田委員】 懇談会では、目黒の自然のみでなく、都市の消費者としての視点や、目黒に残すべき伝承すべき文化についても触れられるようにしてほしいと思います。自然に関しては、目黒区の中で注目すべきことは地方都市に比べると少ないし、都市型の生物多様性保全をより強調できればと思います。しかし、その場合、参加者には「生物多様性」ということを理解しにくいかと思えます。その部分をフォローしながら伝えられるといいのではないのでしょうか。</p> <p>【早野委員】 懇談会を夏休みに設定し、成人の集まりだけでなく、小学生から大学生までの意見交換会が開催されることを期待します。例えば、次に提案する「80選のいきものたち」の「やもり」に関連する話を膨らませるためには、子ども達がどのような設定にすることが、生き物を身近に感じ、それを発展的に捉えてくれるか。懇談会をグループ討論の機会を設けるなど、出席者自身が参加したことに満足感を覚えるようなものにしたいと思います。</p>

意見の追加提出用紙に基づく記載整理

該当資料	意見
<p>資料5 (5) 「80 選のいきもの たち (仮称)」の作 成について</p>	<p>【倉本副委員長】 一般区民への配布が遅れるので、ダイジェスト版を区のHPで閲覧できるようにしたら、早く情報の提供ができるように思います。</p> <p>【早野委員】 80種類の生き物が選ばれたわけですから、第1位のヤモリだけに焦点を当てるのではなく、手塚治のジャングル大帝レオのように、主人公はヤモリ、舞台は林試の森や神社の緑の中で暮らす80選のいきもの達の世界を物語にして展開してみてもいいのではないでしょうか。例えば、懇談会では祐天寺、目黒不動、西郷山など居住区ごとにグループを作り、ワークショップを行い、そこに暮らす生物たちを擬人化してひとつのストーリーを作らせ、発表する。小学生や中学生が展開する話を、高校生や大学生が受けて絵本のような世界に仕立てる作業は時間と手間はかかりますが、愛着のあるものが生まれてくるように思います。</p>

意見の追加提出用紙に基づく記載整理

該当資料	意見
<p>資料6 「平成24年度の各種調査結果 地表性昆虫調査（補足調査）の結果（2012年9月実施）」の作成について</p>	<p>【矢野委員】 資料6平成24年度の各種調査結果の「地表性昆虫調査の結果の表」について「地表性昆虫」も「アリ」も一応土壌動物図鑑に含まれている。次の「土壌動物」はベートトラップで収集された土壌動物が何を差しているのかわからないが、「その他ダンゴムシ？」など代表種で示したほうがよいと思う。</p>

意見の追加提出用紙に基づく記載整理

該当資料	意見
<p>その他</p>	<p>【倉本副委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の時間の不足が否めないなので、このようなアンケートの提出は有効だと思います。 ・会議の場ではなくてよいので、民俗や文化財関係の方から里山や地域の文化や技術の伝承についてうかがいたいです。 ・まだ、目黒区のことが十分に学べていないので、もっと歩いてみようと思っています。 ・昨日の会議の後には、駒場野公園まで歩いてみました。余談ですが、高層ビルの出現は景色を変えますね。 <p>【早野委員】</p> <p>先日、環境絵本を作成した学生達が自治体開催の緑化祭りに参加しました。会場では学生達の作品だけでなく、最新の人気絵本やロングセラーの絵本をレジャーシートに広げ、親子連れに絵本の読み聞かせをすると声をかけ、立ち寄ってもらいました。意外にも「ピタッとヤモリちゃん」は幼児に大変人気でした。独特のリズム感、絵のかわいらしさは、ヤモリでも主人公になれることを確信しました。個人的にはヤモリのくっつく特技を忍者のように表現し、アメリカアニメ「スパイダーマン」のようなカッコよさを持ち味としたいと思いました。また、ドラえもののノビタ君のように気が弱い子供の家に現れ、話し相手になってくれることもストーリーの中で加えたいと思いました。</p> <p>【矢野委員】</p> <p>みんなで選んだいきもの80選のトップ「ヤモリ」の『ゆるキャラ』について思いついたことです。名称候補「ヤモリン」又は「ヤモン」、グロテスクではなくかわいいものにする。行動は忍者の如く俊敏。目は黒。夜は光る。手や体にマジックテープをはりつける。</p> <p>特技：抱擁（ハグ）・しっぽ切り再生・虫捕り。</p> <p>虫捕りとは、以前関口宏司会の「フレンドパーク」にもあったが、小型トランポリンを使い、3m位の板にはりつく。最上部に虫（ぬいぐるみ）をおきそれを捕らえる。別に穴を空けておき、逃げる虫なども用意する、など。</p> <div data-bbox="512 1509 1331 1951" style="text-align: center;"> </div>

生物多様性保全基礎調査（公園樹林）

植物調査

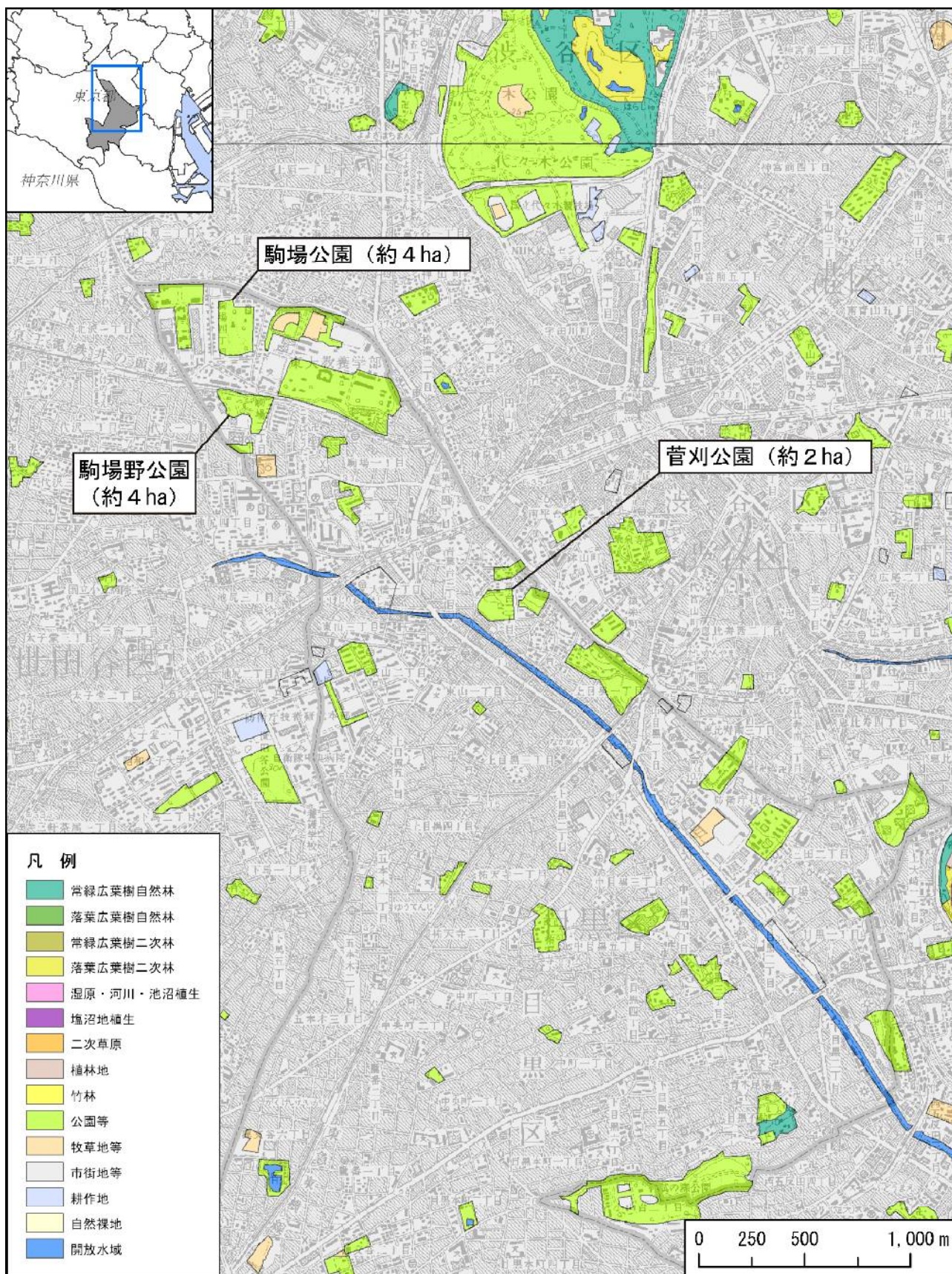
（速報）

平成 25 年 5 月

調査対象地

調査対象地は、以下に示す 3 公園とし、各公園の位置を図 0-1 に示す。

- ・ 駒場野公園（駒場 2-19-70）：約 4ha
- ・ 駒場公園（駒場 4-3-55）：約 4ha
- ・ 菅刈公園（青葉台 2-11-25）：約 2ha



第6回・第7回自然環境保全基礎調査植生調査情報提供ホームページ 1/2.5万植生図
「東京西南部」及び「東京西部」を一部改図 <http://www.vegetation.jp/>

図 0-1 調査対象地

1.1 調査項目及び調査日

調査項目及び調査日は表 1.1-1 に示す。

表 1.1-1 調査項目及び調査日

調査項目	調査日	内 容
林床植生	平成 25 年 4 月 26 日	植物相調査、 注目すべき植物

1.2 調査方法

林床管理、公園の利用形態を把握するために植物相調査を実施し、林床植生の構成種、発達程度を調査する。

2 . 調査結果

2.1 確認種

春季調査の結果、表 2.1-1 に示す合計 103 科 344 種の植物が確認された。確認された植物の多くは関東地域の平地から丘陵に分布する植物のほか、植栽由来の植物が確認された。確認された種の一覧は(1)～(7)に示す。

表 2.1-1 確認種数一覧表

分 類	地 域						全 域			
	駒場公園		駒場野公園		菅刈公園		科数	種数		
	科数	種数	科数	種数	科数	種数				
シダ植物	4	6	5	14	5	8	8	20		
種 子 植 物	裸子植物	5	5	6	13	6	12	7	18	
	被子植物	双子葉類	36	72	49	120	39	96	60	177
		離弁花類	15	35	15	48	15	40	17	68
		合弁花類	9	23	9	37	8	30	11	61
単子葉類	9	23	9	37	8	30	11	61		
合 計	69	141	84	232	73	186	103	344		

表 2.1-2(1) 植物確認種一覧

	分類	科名	種名	地域			備考	
				駒場公園	駒場野公園	菅刈公園		
1	シダ植物	トケ	スギナ					
2			トケ					
3		ハヤスリ	コヒロハヤスリ					
4		ゼンマイ	ゼンマイ					
5		コバノシカグマ	ワラビ					
6		イノモトソウ	イノモトソウ					
7		オンダ	オニヤブソテツ					
8			ヤブソテツ					
9			ヤマヤブソテツ					
10			ヘニシダ					
11			オホヘニシダ					
12			クマワラビ					
13			オクマワラビ					
14			アスカイノテ					
15			イノテ					
16			ヒメシダ	ミゾシダ				
17				ヒメシダ				
18				ヒメワラビ				
19				ミドリヒメワラビ				
20			メシダ	イヌワラビ				
21	種子植物		ソテツ	ソテツ			植栽	
22	裸子植物	イチヨウ	イチヨウ				植栽・逸出	
23		マツ	ヒマラヤスギ				植栽	
24			トイトウヒ				植栽	
25			アカマツ				一部植栽	
26			ダイオウマツ				植栽	
27			クロマツ				植栽	
28			ツガ				植栽	
29		スギ	コウヨウザン				植栽	
30		ヒノキ	ヒノキ				植栽・逸出	
31			サワラ				植栽・逸出	
32			コノテガシ				植栽	
33			イトヒバ				植栽	
34			アスナロ				植栽・逸出	
35		マキ	イヌマキ					
36		イチイ	イチイ				植栽	
37			キャラホク				植栽	
38			カヤ				植栽・逸出	
39		被子植物	ヤマモモ	ヤマモモ			植栽	
40	双子葉類	クミ	シナザクラクミ			植栽		
41	離弁花類	カバノキ	シラカンバ				植栽	
42			クマシテ				植栽	
43			イヌシテ				植栽・逸出	
44	ブナ	クリ				植栽		
45		スダジイ						
46		ブナ				植栽		
47		マテバシイ				植栽		
48		アカガシ				植栽・逸出		
49		クヌギ				植栽・逸出		
50		アラカシ						

表 2.1-3 (2) 植物確認種一覧

	分類	科名	種名	地域			備考
				駒場公園	駒場野公園	菅刈公園	
51	離弁花類	ブナ	シラカシ				
52			ウバメガシ				植栽
53			コナラ				植栽・逸出
54		ニレ	ムクノキ				
55			エノキ				
56			ケヤキ				
57		クワ	カナムグサ				
58			ヤマクワ				植栽・逸出
59		イラクサ	カラムシ				
60		タデ	ミズヒキ				
61			ミヅソバ				
62			イタドリ				
63			スイバ				
64		ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ				帰化
65		ナデシコ	オランダミミナグサ				帰化
66			ツメクサ				
67			ノミノフスマ				
68			ウシハコバ				
69			コハコバ				帰化
70			ミドリハコバ				
71			イヌコハコバ				帰化
72		アカザ	シロザ				
73		モクレン	タイサンボク				植栽
74			コブシ				
75		マツバサ	サネカスラ				
76		ロウバイ	ソシンロウバイ				植栽
77		クスノキ	クスノキ				植栽・逸出
78			ヤブニッケイ				
79			ニッケイ				植栽・逸出
80			ゲッケイジュ				植栽
81			ダンコウバイ				
82			タブノキ				
83			シロタモ				
84			アブラチャン				
85		カツラ	カツラ				植栽
86		キンポウゲ	ニリンソウ				植栽
87			ヒメウス				
88			セリハヒエンソウ				帰化
89			ケキツネノボタン				
90		メギ	ナンテン				植栽・逸出
91			ヒイラキナンテン				植栽
92		アケビ	アケビ				
93		トクダミ	トクダミ				
94			ハンゲショウ				
95		センリョウ	フタリスカ				
96			センリョウ				植栽
97		マタビ	オニマタビ				植栽・逸出
98		ツバキ	ヤブツバキ				植栽
99			サザンカ				植栽
100			ハマヒサカギ				植栽

表 2.1-4 (3) 植物確認種一覧

	分類	科名	種名	地域			備考	
				駒場公園	駒場野公園	菅刈公園		
101	離弁花類	ツバキ	ヒサキ					
102			モッコク					
103			チャノキ				植栽・逸出	
104		オキリソウ	ヒヨウヤナギ				植栽	
105		ケシ	ムラサキマン					
106			タケノコ					
107			ナガミヒナゲシ				帰化	
108		アブラナ	セイヨウカラシナ				帰化	
109			セイヨウアブラナ				帰化	
110			ナズナ					
111			タネツケバナ					
112			ミチタネツケバナ				帰化	
113			ハナダイン				帰化	
114			イヌガラシ					
115		マンサク	ヒュウガミズキ				植栽	
116			イスノキ				植栽	
117			フウ				植栽	
118		ハンカイソウ	コモチマンネングサ					
119			ツルマンネングサ				帰化	
120		ユキノシタ	ヒメウツギ				植栽・逸出	
121			アジサイ				植栽・逸出	
122		トベラ	トベラ				植栽	
123		バラ	クサホケ					
124			ハビイチゴ					
125			ヒワ				逸出	
126			ヤマブキ				植栽	
127			カメモチ				植栽	
128			レッドロビン				植栽	
129			キンムシロ					
130			ミツバツチグサ					
131			オハビイチゴ					
132			カマツカ					
133			イヌザクラ					
134			ヤマザクラ				植栽	
135			オオヤマザクラ				植栽	
136			ウメ				植栽	
137			シダレザクラ				植栽	
138			スモ				植栽	
139			トキワサザシ				植栽・逸出	
140			シャリンバイ				植栽	
141			ノイバラ					
142			クサイチゴ					
143			カシイチゴ				植栽	
144			コデマリ				植栽	
145			シジミバナ				植栽	
146			ユキヤナギ				植栽	
147			コゴメツバキ				植栽	
148			マメ	ヤブマメ				
149				ゲンゲ				逸出
150		ハナスオウ					植栽・逸出	

表 2.1-5 (4) 植物確認種一覧

	分類	科名	種名	地域			備考
				駒場公園	駒場野公園	菅刈公園	
151	離弁花類	マメ	シラハギ				植栽
152			クス				
153			ハリエンジュ				植栽・逸出
154			エンジュ				植栽
155			シロツメクサ				帰化
156			ヤハズ・インドウ				
157			フジ				植栽・逸出
158		カタバミ	イモカタバミ				帰化
159			カタバミ				
160			ムラサキカタバミ				帰化
161			オウタチカタバミ				帰化
162		アワロソウ	アメリカアワロ				帰化
163		トウダイグサ	アブラキリ				植栽
164			トウダイグサ				
165			アカメガシワ				
166			ヤマアイ				植栽・逸出
167		ユズリハ	ユズリハ				
168		ミカン	カボス				植栽
169			サンショウ				植栽・逸出
170		ニガキ	ニワウルシ				逸出
171		センダングサ	センダングサ				植栽
172		ウルシ	ヌルテ				
173			ハゼノキ				
174		カエデ	エンコウカエデ				植栽
175			イロハモミジ				植栽
176			オオモミジ				植栽
177			ハナノキ				植栽
178		トチノキ	セイヨウトチノキ				植栽
179	モチノキ	イヌツゲ				植栽	
180		モチノキ				植栽・逸出	
181		タラヨウ				植栽	
182	ニシキギ	マユミ					
183	ツゲ	フッキソウ				植栽	
184	クロウメモドキ	ケンボクサ				植栽	
185	ブドウ	ヤブガラシ					
186		ツタ					
187	シナノキ	シナノキ				植栽	
188	アオイ	フヨウ				植栽	
189	ジンチョウゲ	ミツマタ				植栽	
190	ゲミ	ナワシロゲミ				植栽	
191	イゲリ	イゲリ				植栽・逸出	
192	スミレ	タチツボスミレ					
193		ツボスミレ					
194	キブシ	キブシ				植栽	
195	ウリ	アマチャヅル					
196	ミソハギ	サルスベリ				植栽	
197	ウリノキ	ウリノキ				植栽	
198	ミズキ	アオキ				植栽・逸出	
199		ミズキ					
200		アメリカヤマボウシ				植栽	

表 2.1-6 (5) 植物確認種一覧

	分類	科名	種名	地域			備考	
				駒場公園	駒場野公園	菅刈公園		
201	離弁花類	ミズキ	サンシュユ				植栽	
202			ウコギ	オカウコギ				
203				カクレミノ				植栽・逸出
204				ヤツデ				
205				オカメツタ				植栽
206				セイヨウキヅタ				植栽
207				キヅタ				
208				ハリギリ				植栽・逸出
209				セリ	セントウソウ			
210		ミツバ						
211		ヒメトメ						
212		セリ						
213		ヤブニンジン						
214		ヤブシラミ						
215		オヤブシラミ						
216	合弁花類	ツツジ	トウゲツツジ				植栽	
217			アセビ				植栽・逸出	
218			ホンシャクナゲ				植栽	
219			サツキ				植栽	
220			オオムラサキ				植栽	
221		ヤブコウジ	マンリョウ					
222			ヤブコウジ					
223		サクラソウ	コナシ					
224		カキノキ	カキノキ				逸出	
225		エゴノキ	エゴノキ					
226			コハクウンボク				植栽	
227		モクセイ	ネズミモチ				植栽・逸出	
228			トウネズミモチ				逸出	
229			イボタノキ					
230			ヒイラキモクセイ				植栽	
231			キンモクセイ				植栽	
232			キンモクセイ				植栽	
233		キョウチクトウ	ツルニチチソウ				植栽	
234		アカネ	ヤエムグラ					
235			ヨツバムグラ					
236			ヤイトバナ					
237			アカネ					
238		ヒルガオ	コヒルガオ					
239			ヒルガオ					
240		ムラサキ	ハナイバナ					
241	キュウリグサ							
242	クマツヅラ	ムラサキシキブ						
243		ハマクサギ				植栽		
244	シソ	キランソウ						
245		トウバナ						
246		イヌトウバナ						
247		カキトオシ						
248		ホトケノザ						
249		ヒメオドリコソウ				帰化		
250	ナス	クコ						

表 2.1-7 (6) 植物確認種一覧

	分類	科名	種名	地域			備考	
				駒場公園	駒場野公園	菅刈公園		
251	合弁花類	ハス	ヒヨドリジョウゴ					
252			ゴマノハグサ	ムササギゴケ				
253				トキハゼ				
254				クチナシノグサ				帰化
255				ムシクサ				
256				オオムシクサ				帰化
257				カヂヤ				
258				オハコ	オハコ			
259		ヘラオハコ					帰化	
260		スイカスラ	ハナツツクハネツキ				植栽・逸出	
261			スイカスラ					
262			ソクス					
263			ニワトコ					
264			サンゴジュ				植栽	
265			タニツキ				植栽	
266		キ	ヨモギ					
267			ヤブタバコ					
268			アメリカオアシ				帰化	
269			ハルジオン				帰化	
270			ツツキ				植栽	
271			ハハコグサ					
272			チヂクサモト				帰化	
273			ウラボシ				帰化	
274			コオヒラコ					
275			フキ					
276			ノボリク				帰化	
277			セイヨウアサギ				帰化	
278			オニゲシ				帰化	
279			ノゲシ					
280			ヒメジョオン				帰化	
281			セイヨウタンポポ				帰化	
282			カントウタンポポ					
283		オニタビラコ						
284	単子葉類	ユリ	ヒル					
285			ハラン				植栽・逸出	
286			オリヅルラン				植栽	
287			ホウチャクソウ					
288			ヤマユリ					
289			ウバユリ				植栽・逸出	
290			ヤブラン					
291			ノシラン				植栽	
292			ジャノヒゲ					
293			チャボリュウノヒゲ				植栽	
294			ナガバジャノヒゲ					
295			アマトコロ				植栽	
296			キリンヨウソウ				植栽・逸出	
297			オモト					
298			ヤマノイモ	オニトコロ				
299		アヤメ	シャガ				植栽	
300	カキツバタ					植栽		

表 2.1-8 (7) 植物確認種一覧

	分類	科名	種名	地域			備考
				駒場公園	駒場野公園	菅刈公園	
301	単子葉類	アマ	キョウブ				帰化
302			ヒメオウキズイセン				帰化
303		イグサ	クサイ				
304			スズメヤリ				
305		ツユクサ	ツユクサ				
306			ブライダルヘル				植栽・逸出
307			イボクサ				
308			ヤブミョウガ				
309			ムラサキツユクサ				帰化
310		イネ	ヌカホ				
311			スズメノテッポウ				
312			メリケンガサ				帰化
313			カズノコグサ				
314			イヌムギ				帰化
315			チガヤ				
316			ケチミザサ				
317			コチミザサ				
318			クサヨシ				
319			マダケ				植栽・逸出
320			モウソウチク				逸出
321			アズマネザサ				
322			ミゾイチゴツナギ				
323			スズメノカタビラ				
324			オオイチゴツナギ				
325			イチゴツナギ				
326			オオスズメノカタビラ				帰化
327			クマザサ				植栽
328			オカメザサ				植栽
329			シホウチク				植栽
330			シバ				植栽
331		ヤシ	シュロ				逸出
332		サトイモ	セキショウ				
333		ヤツリグサ	アオスゲ				
334			メアオスゲ				
335	シラスゲ						
336	マスクサ						
337	ナキリスゲ						
338	オアオスゲ						
339	ホンモンジスゲ						
340	ショウガ	ハナミョウガ					
341	ラン	シラン				植栽	
342		キンラン					
343		キンラン					
344		マヤラン属の一種					
	合計	103科	344種	141種	232種	186種	

注)「帰化」は帰化植物を、「植栽」及び「逸出」は植栽された植物あるいは植栽された個体が逸出した個体であることをそれぞれ示す。

(1) 注目すべき植物

春季調査の結果、確認された注目すべき植物は表 2.1-9 に示す 12 科 15 種であった。マヤラン属の一種については種の特定に至らなかったが、同属のマヤランが注目すべき植物として抽出されるため、属の一種として記載した。

なお、選定基準によってニリンソウ及びハナノキ、シナノキ、アマドコロ、カキツバタ、シランの 6 種が注目すべき植物として抽出されたが、これらは植栽個体のため注目すべき植物としては取り扱っていない。

各公園における注目すべき植物の確認位置を図 2.1-2 に示す。

表 2.1-9 注目すべき植物一覧

	科名	種名	環境省 レッドリスト	東京都レッドリスト				備考
				区部	北多摩	南多摩	西多摩	
1	ハヤスリ	コノハヤスリ		VU	VU	VU	VU	
2	オダ	アスカイナ		VU	VU	VU	VU	
3	クスノキ	ニッケイ	NT					
4	キンポウゲ	ニリンソウ		NT	NT			植栽
5	トクサミ	ハンゲショウ		CR	CR	CR		
6	カエデ	ハナノキ	VU					植栽
7	シナノキ	シナノキ			CR	VU	VU	植栽
8	ゴマハグサ	カヂシャ	NT					
9	ユリ	アマドコロ		VU	VU	NT	NT	植栽
10	アヤメ	カキツバタ	NT	EN	CR	CR		植栽
11	カヤツリグサ	ホンモンズゲ		VU	VU	NT	NT	
12	ラン	シラン	NT					植栽
13		キンラン		VU	VU	VU	VU	
14		キンラン	VU	VU	VU	VU	VU	
15		マヤラン属の一種	VU					
	12科	15種	7種	9種	10種	9種	7種	

注) 注目すべき植物の選定基準の詳細は以下のとおり

・『第 4 次レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』

(平成 24 年 8 月 環境省)

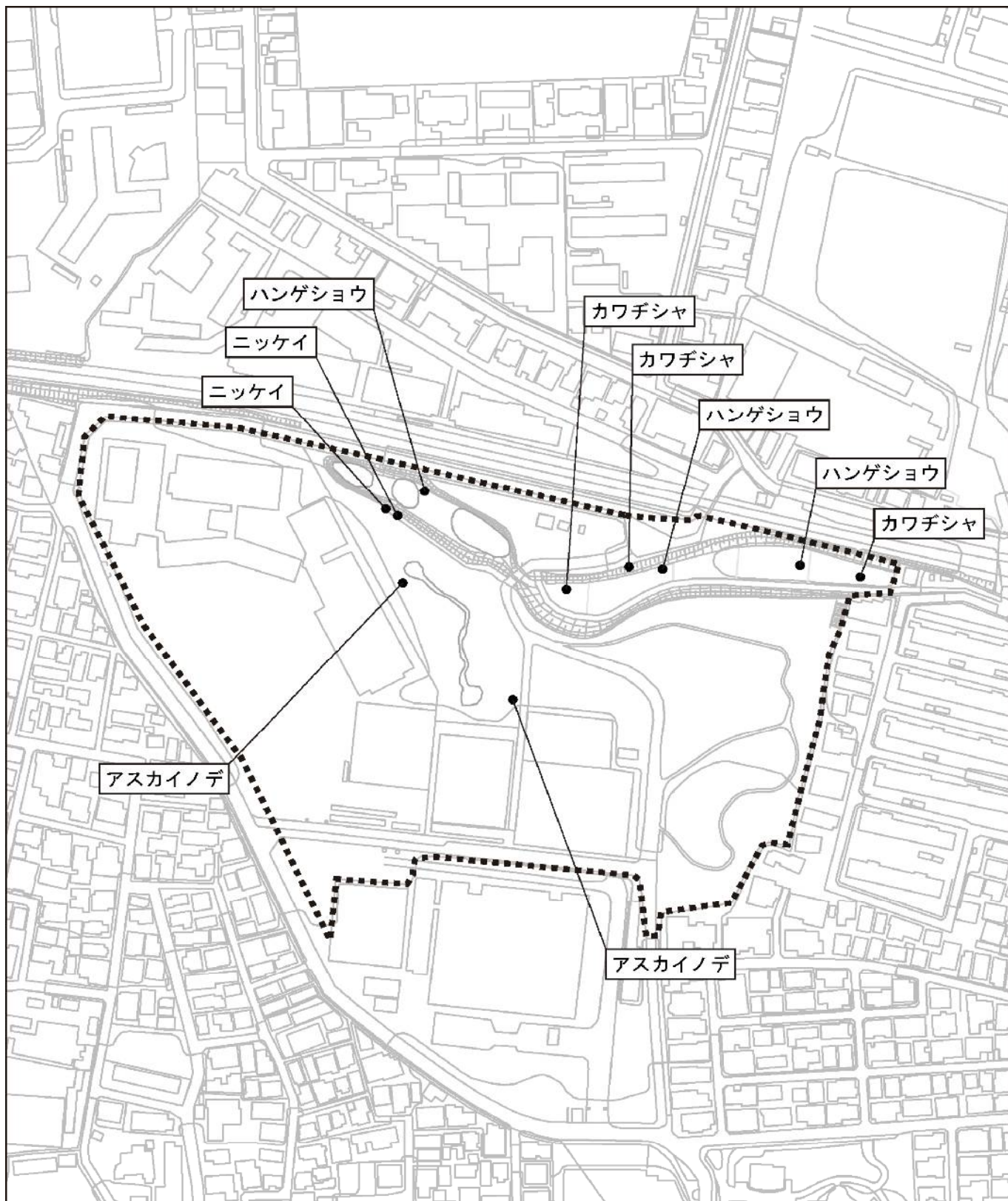
VU: 絶滅危惧 類、NT: 準絶滅危惧

・『「東京都の保護上重要な野生生物種」(本土部)～東京都レッドリスト～』

(平成 23 年 4 月 東京都) 本業務の調査対象地は区部に該当

CR: 絶滅危惧 A 類、EN: 絶滅危惧 B 類、VU: 絶滅危惧 類、NT: 準絶滅危惧

(駒場公園の図版は植物保護のため未掲載です)



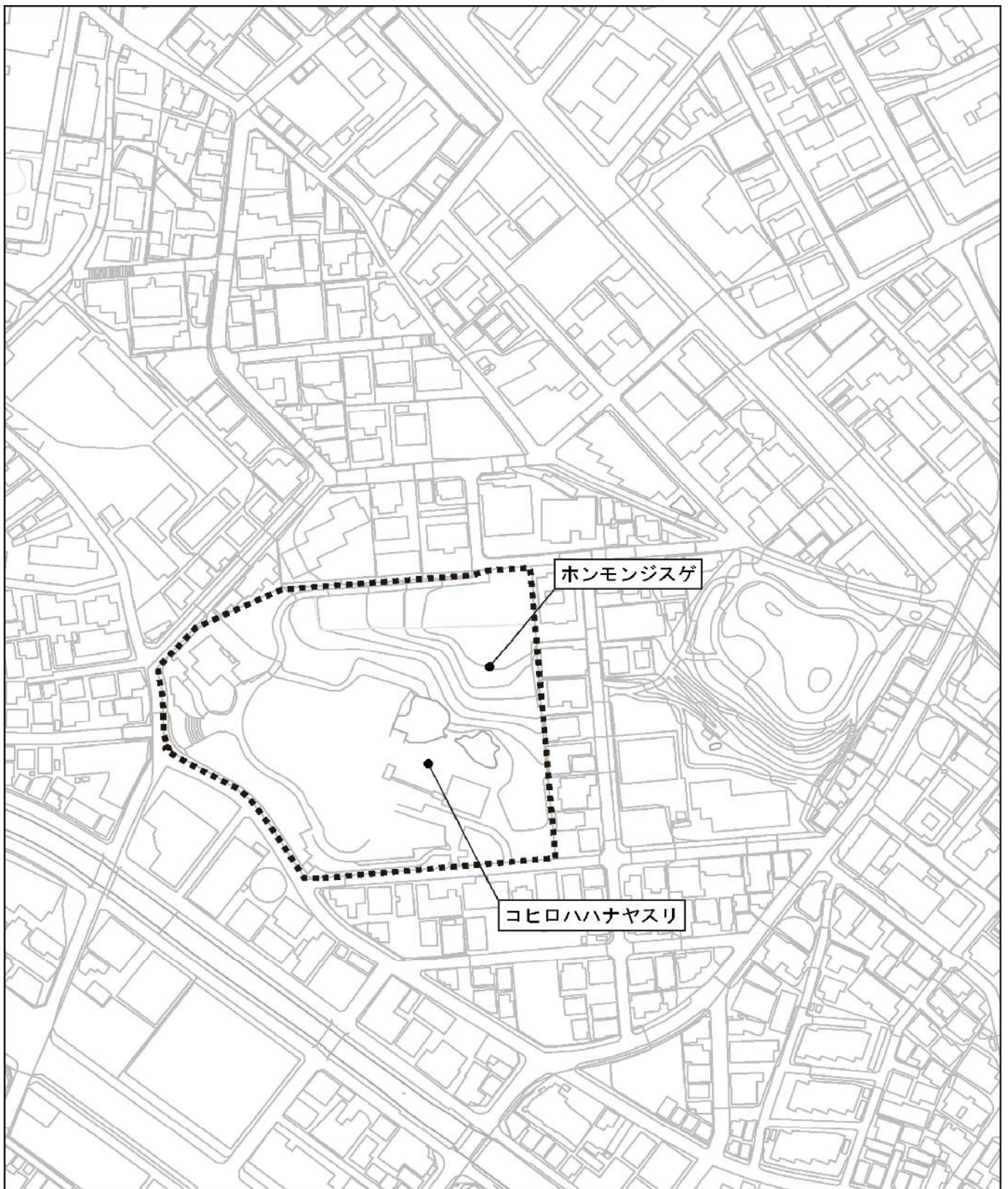
..... 調査範囲
 [種名] 注目すべき植物確認位置



1:2,500



図 2.1-1 注目すべき植物確認位置
 (駒場野公園)



..... 調査範囲
 [種名] 注目すべき植物確認位置



1:2,500



図 2.1-2 注目すべき植物確認位置
(菅刈公園)

委員からの施策に対する事前意見

意見として

◎全体のイメージはまとまってきたと思います。

それを実現していくための戦略（工夫や知恵）についても話しあったらいかがでしょうか。

- ・区立の幼稚園、小、中学校の花壇や畑、田んぼ等の土の面積を増やす。
子ども達に自然と触れ合ってもらおう。
- ・区内の緑道をもっと有効に利用し、ビオトープの役割を果たす植栽にする。
- ・屋上緑化や壁面緑化等、義務としてではなく快適な空間になることを知ってほしい。

まずはすぐに出来そうなことを羅列しました。

よろしく願いいたします。

さーくる・ガーデン・クラブ 石川雅子

意見の追加提出用紙（項目や要素がもれているものやその他アイデアなどをご記入ください）

委員名 _____

(1) 計画のテーマと名称について



(2) 生物多様性を言い換えた言葉について



(3) 将来ビジョンと目標について



(4) 施策について



(5) 基本方針案の構成について



(6) その他 意見聴取の方法について



【回答期限】平成25年 月 日 ()

【回答先】郵 送 : 〒153-8573 目黒区役所 都市整備部 みどりと公園課 みどりの係

FAX : 03-3792-2112

E-mail : メールでファイルを送付いたしますので、御返信お願いいたします。